第21号 2022.10.1

栃木市
教育委員会だより
絆

発行：栃木市教育委員会
住所：栃木市万町9-25
電話：0282－21－2467
FAX：0282－21－2689
Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp

栃木市立美術館開館

栃木市立美術館が、「とちぎの歴史・文化・芸術を、みんなで楽しみ、広め、創る拠点」をコンセプトに、令和4年11月3日（木）に開館します。

美術館では、浮世絵師・喜多川歌麿をはじめ、明治以降に活躍した清水登之、田中一村、刑部人、鈴木賢二らの絵画や二代飯塚鳳齋、飯塚琅玕齋らの竹工芸など、市ゆかりの作家たちの作品を収蔵しています。これらの作品を収蔵品展で紹介するとともに、企画展を開催し国内外の優れた作品を展覧します。

栃木市教育のスローガン

「ふるさとの風土で育む 人づくり・まちづくり」

～とちぎ未来アシストネットの推進～

‘とちぎ未来アシストネット’とは、学校・家庭・地域の連携により、地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」を育むとともに「地域の活性化」を図る本市独自の教育システムです。

栃木市教育ニュース

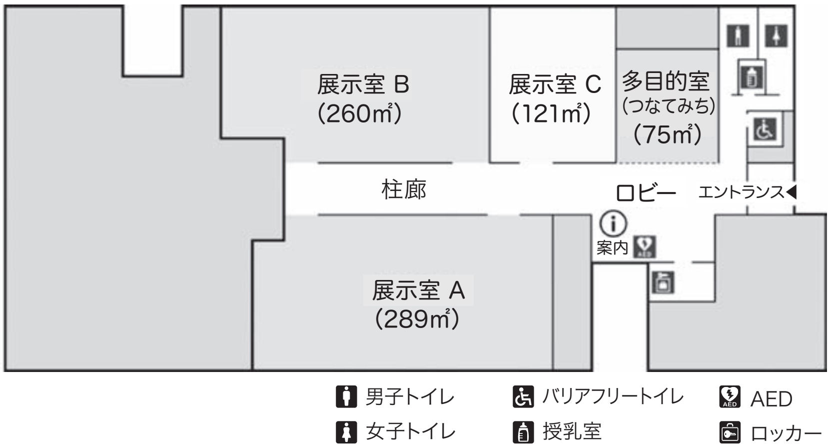
教育委員会では、生涯学習を基盤とした社会の構築を目指して、本市ならではの教育を推進しています。
今号の『栃木市教育ニュース』では、「栃木市立美術館」について市民の皆様にお知らせします

栃木市立美術館の概要

栃木市立美術館は、鉄筋コンクリート造2階建。蔵をイメージした外観が、隣接する栃木市立文学館や県庁堀など、周囲の景観と調和しています。

エントランスを入ると、巴波川をイメージした柱廊（ちゅうろう）が、瀟洒（しょうしゃ）で落ち着いた印象を与えます。

ロビーから見た柱廊



展示室A／展示室B　市ゆかりの美術作家や国内外の著名な作家・作品等の企画展示を行います。
展示室C　主に収蔵品の展示を行います。
多目的室（つなてみち）講演会やワークショップなどを行います。

11月3日の美術館開館にあわせ、喜多川歌麿の高精細複製画「深川の雪」「品川の月」「吉原の花」の展示、参加型プログラム「1トンになる」及び「とちぎを藍で染める」の成果展を開催します。

来年4月には、開館記念展「明日につなぐ物語」を開催し、喜多川歌麿や田中一村など、江戸時代から現代にいたる本市ゆかりの美術作家の作品を展示します。

美術館は、来年3月5日まで入館無料です。この機会に是非、美術館をご覧になってください。

開館時間　9時30分～17時
休 館 日　月曜日（祝日の場合は翌日に振替）、祝日の翌日（土･日･祝日の場合は開館）
年末年始（12月29日～1月3日）、展示替えなどのための整理期間

我が国の美術館誕生は、明治五年東京湯島聖堂で文部省主催の美術工芸品の展示が行われたのが始まりとされています。美術館へ行くことは、素晴らしい作品に出会うだけでなく、美術館という環境自体やその近隣の歴史・文化・自然に関心を寄せることで、より愉しみが倍増する利点があります。「栃木市立美術館」は、館内の魅力はもとより、隣接する栃木市立文学館や県庁掘など館外の街並みと調和した地に誕生しました。本市ゆかりの美術作家による作品を数多く収蔵しています。歴史的な作品だけではなく、現代の作品も収蔵展で紹介したり、企画展では、国内外の作品も展覧したりする計画です。「みる」には、注意して「視る」、広い範囲を「覧る」など様々な意味が込められています。「見る」「瞥る」「看る」「観る」「瞰る」「察る」等々いろいろな見方で、作品と対話し、その世界に飛び込み、存分に浸っていただきたいと願っています。

教育長職務代理者　後藤　正人

教育委員の活動日誌

教育委員は、栃木市の教育の充実のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今号の『教育委員の活動日誌』では、その定例教育委員会と毎年教育委員会が行う自己点検及び評価の参考となる意見を聴取する点検評価委員会議の様子を紹介します。

定例教育委員会

点検評価委員会議

点検評価委員会議では、有識者及び教育関係者である5名の点検評価委員から、令和３年度の本市教育事業について様々なご意見をいただきました。

教育委員からのメッセージ

「教育委員の活動日誌」では、教育委員からのメッセージを掲載しています。
今回のテーマは「これからの教育に大切なこと」です。

人とのつながりを重視した教育が大切です。情報化社会の進展や近年のコロナ禍の為、人と人が直接会話する機会が減ってしまいました。昔の井戸端会議のような何気ない会話から生まれるコミュニケーション…そんな素敵なつながりが、今とても貴重です。

子どもの小さな変化、サインを大人が見逃さないように、心が温まるような会話ができる場所づくりを進めていきたいと思います。

教育委員　西脇　はるみ

コロナと共に生きる今、子ども達にとって制限が多くなっている、そんな時代だからこそ、教育は明るい未来を示すものであってほしいです。

「勉強をすることで未来は必ずよくなる。この先生のもとならば自分は頑張ることができる。学校に行けばもっと自分は成長できる。」

そんなふうに教育は希望を与えるもの。大人達の意識と行動で教育を希望あるものにしていきたいです。

教育委員　大橋　孝子

多様性･ダイバーシティ･ごちゃまぜ…最近、耳にすることが増えてきました。現代社会や学校教育の中でも、「多様性」が重視されています。

多種多様なニーズと多様な学びと学びの保障のバランスの中で、すべてに応えることは難しい…。それでも、どんな個性を持った人にも生き方の選択肢があるように、一人ひとりに合った選択の幅があることで、安心してのびのびと子ども時代を過ごせることが大切だと考えています。

教育委員　舘野　知美

人生は一回しかありません。それは教師であっても子どもでも同じです。しかし、大人の時間とは違い子どもの時代は短く、嵐のように速いものです。ですから学校運営の骨格よりも、子ども時代の一回性こそ優先されるべきです。子どもに向き合ったとき「仕方ないんだ」という悟った態度を取るならば、子どもの純心を歪めます。「たった一度しかない人生を…」という山本有三先生の教えは、これからは子どもだけでなく、子どもを導く教師に対してのものだと考えます。

教育委員　林　慶仁

栃木市版　先生の働き方改革

栃木市
マスコットキャラクター
と ち 介

過労死ラインを超す先生の完全0(ゼロ)を目指して！

本市の公立小中学校の勤務実態において、過労死ラインと言われている月８０時間以上の時間外勤務を行っている教職員の割合は以下のとおりです。

１３,８％（令和4年2月調べ）

平成30年2月の調査結果である、３７．５％よりは、校内業務のスリム化等の様々な取組により、かなり改善されましたが、まだまだ十分とは言えません。

先生本来の姿である‘明るく元気に子どもたちにしっかり向き合える’教育環境を整えるため、今後ともご家庭や地域からのご理解・ご支援をよろしくお願いします。

小職の子二人は教育関係で働き、もう一人は教師を目指している。理由は聞いていないが、小中高校とてもいい先生に巡り合ってきたからだろう。多くのご家庭がそうであるように、わが家でも先生の話題が尽きなかった。子どもたちは笑いにあふれ、私も大いに楽しませてもらった。

先生次第で子どもたちは元気になり、家族は幸せになり、未来も輝いてくる。私たちは、教師という仕事の大切さを、今こそ真剣に考えるときにきている。

教育委員　福島　鉄典

教育長通信　～美は細部に宿る～

今年の春のことになります。栃木県立美術館で開館50周年記念企画展を開催していると聞き、足を運びました。この50年間に収集した約9，000点の収蔵品の中から、時代やジャンル、作家を問わず選りすぐりの作品ばかりを展示したという「題名のない展覧会」。そのラインナップたるや、正に圧巻でした。それらの中には、清水登之、鈴木賢二、刑部人など、本市ゆかりの作家の作品も少なからずあり、栃木市民として嬉しさと同時に誇らしさを覚えたものでした。

そんな中、同じく本市出身の竹工芸家飯塚琅玕齋の作品の前で足が止まりました。微細な細工が全体に施された花籠。その造形美のみならず、堅い素材を用いて一編み一編み渾身の力と思いを込めて作り上げたであろう過程が想像され、しばし作品に見入ってしまいました。更に目を奪われたのは、籠内側の底の部分です。そこは「見込み」と呼ばれ、花を差す筒を入れると隠れて見えなくなってしまう部分です。しかし、「見込み」に施された細工は、表面部のそれに勝るとも劣らぬ繊細さと優美さを放って、見る者の心を惹き付けます。ふと作品の傍らに添えられた解説に目を移すと、「美は細部に宿る」との言葉が飛び込んできました。目に見える部分だけでなく、見えない部分にまで、いや、むしろ見えないところにこそ、「美」を宿らせる。その琅玕齋の芸術家としての哲学が、多くの人々の心を掴んで離さない傑作を産ましめたものと確信しました。

人はそれぞれ異なる仕事を生業(なりわい)としています。がしかし、もし共通していることがあるとするならば、目に見えないところ、人に気付かれないところにもしっかりと「魂」を注ぎ込んで仕事に当たる。そうあってこそ、それぞれの道のプロフェッショナルと言える、ということではないでしょうか。琅玕齋の作品から、そんなことを考えた春の一日でした。

教育長　青木 千津子

【編集後記】

“教育委員会だより 絆”は市民の皆様に、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は
こちらまでお寄せください。
栃木市教育委員会教育総務課　〒328-8686 栃木市万町９-25
電話：0282-21-2461 FAX：0282-21-2689　Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp